

市政を問う!

19 議員が登壇 (一般質問)

新阿蘇中学校の水没について



谷崎 利 浩

谷崎 中学校統合の説明会の際、「浸からない」と言った根拠は、

岩下教育部長 7・2水害を経験して、それ以後黒川等の河川事業が進められており、ある程度安全が図られていると思っております。

谷崎 設計委託された21年度以前から異常気象による予想外の豪雨によって、被害が全国で出ていたが、用地選定に問題はなかったのか。

日田教育課長 阿蘇市立学校整備用地選定委員会で検討が行われ、許認可関係・インフラの状況など様々な条件を検討し、一ヶ所に選定をしました。

佐藤総務課長 防災環境として、土砂災害、地滑り、水害、そういう部分を考慮して、全く危険がないという事ではありませんが、河川に面していないから危険性が低いと報告いたしました。

谷崎 それならば、水没しませんが断言すべきではなかったでしょう。

避難所指定4条件の中に歴史的な観点から安全な場所であることとある。2度も水没した地域で、防災マップでも1.5~2mの青の場所、万全な対策を執るべきだったと思うが。

教育部長 以前は田で、県道並みの高さまで1.5m盛土しております。体育館の風通しが悪いことについては、避難所という事でバリアフリーのため、極端に盛土することは出来ませんでした。

谷崎 安全確保を含め今後の対策は。
教育部長 今回の災害を教訓として、市全体の災害対策を踏まえて学校の防災体制、復旧体制、ソフト面を含め対応していきたいと思っております。

他に、「スクールバス等、学校全般について」、「水害分析等、水害全般について」の質問がありました。



浸水した阿蘇中

災害基本計画(マニュアル)について



市原 正

市原 7月12日の豪雨災害により、市内の多くの地域で被害が発生した。想定外の百二十ミリを超える雨量のゲリラ豪雨により発生した今回の災害、災害基本計画の見直しの必要について問う。

佐藤総務課長 現在阿蘇市では、地域防災計画の中で、定められた基準によって避難勧告等を行っていますが、今後の防災会議の中で、基本的な部分等必要な部分の見直しを行っていきたいと考えているところです。

市原 復旧から復興に向けて抜本的改革の必要性について、一例だが、今回古城地区において、公民館が避難所として使えなかったその対策が必要ではないか。また、古城の市民の皆さんが避難するのにその道路が無かったと言われている、県道のバイパス化等、避難道路の確保等について問う。

渡辺総務部長

まず、県道のバイ

パスの話、嵩上げの話は、県の方からも出ております。それから市議のお話になられたハード面などを含めて、今後市が出来る部分は勿論ですが、けれども、県・国については早急な対策を要請しております。

市原 被災された市民の皆さん、特に仮設住宅に入居された方々のニーズに対してのサポート、市としての体制を問う。

城健康福祉課長 住み慣れた土地を離れての生活ですので、今後様々な不安等出てくると思っております。保健師、看護師等による訪問を行い、要望等につきましては、担当課に引き継ぎ、サポートしたいと考えております。



完成した仮設住宅

災害と被害について



田中 弘子

田中 新生阿蘇中学校、内牧小学校の浸水の原因は。

日田教育課長 浸水に至った経緯ですが、前回(平成2年)の雨量67ミリ、今回108ミリの雨が降っております。堤防決壊、河川の氾濫箇所が増大が原因だと考えます。今後の対応という事で、両校とも国の災害復旧事業に沿った計画により、早期着工で工事に取り組んでいく予定です。

田中 高齢者、障がい者に対するの災害時の対応は。

城健康福祉課長 大半の支援者(区長、民生委員、地元消防団員)の方々が要援護者への声を掛ける対応をしていただきました。特に程度の重い障がい者の方へ、電話連絡で安全確認を行っています。

岡田高齢者支援課長 高齢者の安否確認の対応を行っています。今回の災害を教訓に地域支援体制の構築を図っていききたいと思っています。

江藤市民部長 今後も行政と地域各施設、組織的な連携を構築していきたいと思っています。

教育課長 今後のポートの配備先は、数についても検証した中で、話を進めさせていただきます。

佐藤市長 今回の大災害については、たくさんの方の事を教えられました。これから万全を期したいと考えています。いつ災害が発生しても不思議でない気象状況になってまいりました。更に安全性を高める、そういう取り組みをしていかなければと思っております。

その他に「阿蘇中学校、内牧小学校の通学路及び通学時の送迎について」の質問がありました。



浸水後、水が引き始めた内牧小学校

中東部河川改修及び農地転用見直しは



井手 明 廣

井手 以前から要望がされていた中東部の河川改修は、また水門を中東部の河川から黒川に斜めにしたら、排水が早くなり湛水地帯の解消になると思うが。

渡邊経済部長 途中の部分で黒川へ抜くことも検討してまいりましたが、効果が見えにくいという事で、現状を見合わせている状況です。7・12災害の關係で、今後黒川の河川改修が大幅に進めば、中東部川の改修についても抜本的な改修が出来るのではないかと思っています。

井手 中東部の河川改修は、市又は土地改良で出来ると思うが。

経済部長 改修には大きな費用が伴いますので、黒川の改修状況を見て、国の補助事業等を活用することが必要です。

井手 7・12災害で住宅の全・半壊又浸水された被災者が集団移転する場合、農地転用の見直しは出来ないか、また、その集落に近い安全な

場所を盛土して分譲し、個人に払い下げなどの考えはないか。

経済部長 住み慣れた地域から離れたところに出ていき、地域のもととあったコミュニティが壊れるようなことはいけないと思います。地域内に安全な場所が見つかり、そこが農振地域内であれば、当然農振地域の除外が必要になります。農振地域の中に家を建てることはできません。しかし要件がそろえば、それを外すこともできます。集団移転については、移転場所の位置付けや計画を段階的に進める事が必要です。地域の中で話し合いを進め、協議をして頂く事と農振法や農地法の一定の要件を満たせば、小規模の部分で作っていくことは可能と思います。

井手 水田、畑、ハウス等の土の除去は、又倒壊したハウスの撤去は、

経済部長 ハウスの倒壊部分、土の除去は災害復旧で行い、ハウスの建て替えは別の補助事業でやっていきます。出来る限り早く優先順位を付け進めてまいります。



改修が待たれる中東部の河川

降雨状況等、市民への情報提供のあり方について



高宮 正 行

高宮 平成二年七月二日の降雨はどのような状況だったのか。

日田教育課長 阿蘇山の降雨状況で九時から十時にかけて七十一ミリが最大となっています。

高宮 近年日本各地で百ミリを超える豪雨が多発しているが、今回の七月十一日から十二日にかけての降雨量は。

佐藤総務課長 阿蘇市管内で観測点が十一箇所あり、坂の上百十七ミリから、最大で宮地百二十六ミリであり、時間雨量がすべて百ミリを超えています。

高宮 坂梨から古城にかけて、雨量計が設置されていないので、阿蘇市管轄の雨量計を設置して、雨量情報を県の情報と合わせて、お知らせ端末や携帯電話やスマートフォン、タブレットなど新しい情報媒体を活用して、住民の皆さんに提供していく必要があると思うが。

総務課長 いくつもの情報媒体を

使い市民の皆さんに情報が伝わるよう努めていきます。

高宮 降雨情報を広く市民の皆さんに伝え、災害に備えて防災を進めていかなければならない、そして生命財産を守るといふ行政の役目を果たしていただきたい。

総務課長 情報通信手段を確保するという事も、大変今後の災害に備えては重要な事かと思っております。専門家のご意見をうかがいながら、少しでも住民の方々が安心して暮らせる阿蘇市づくりを進めたいと思っております。



氾濫した河川